

路地行灯

能村 研三

宗左近と市川

本年六月で詩人宗左近が亡くなって二十年となる。宗左近は、東京から総武線で江戸川鉄橋を渡った、すぐの市川のマンションに住まわれていた。部屋から江戸川を挟んで富士山が見えるのが気に入っておられ一九七八年から亡くなる二〇〇六年までお住まいであった。インコのタロイを肩に乗せて、好んで江戸川沿いの散歩をされていたこともある。私もこのマンションを何度もお訪ねして、宗左近が収集した縄文土器で酒を酌み交したこともある。今から十年前には没後十年を記念して、二〇一六年、里見公園の高台に詩碑が建立された。

蕊

曙いま世界が垂直 市川 蕊の蕊
の透明ははたく虹の風たち

詩碑は宗左近と親交のあった彫刻家中村ミナトさんにより手掛けられ、地球の芯から宇宙に向かい燃え上がる炎をイメージした作品となっていて、正面には、市川のために作詞された「市川讃歌 透明の蕊の蕊」の

風筋に沿ひ咲きのぼる桐の花
いちまいの月のさざなみ種浸す
湯に放ち菖蒲の丈もかしこくも
花過ぎの路地行灯の石畳
伊勢藤は希静の習ひ花は葉に
春日傘芸者小道のカーン坂
電子図書館厭ひ遅日の本の虫
雨足りし土のかをりや燕来る
余花落花歩きてひろげゆく記憶
若葉透け窓全開の弓道場

一節が自筆の文字で刻まれている。里見公園の中でも標高が高い所にあり、江戸川を見下ろし、遠くに富士山を望む絶好の地で、春には宗左近が好きだった満開の桜の花に覆われ、すぐ隣には伊藤白潮句碑（来歴のやうに「本冬の川」と私の句碑〈川を生む山の力や幟立つ〉がある。宗左近は市川で、詩歌句協会発足の原点ともなる、「風の会」を設立され、詩、短歌、俳句、文芸を志向する人たちのジャンルを超えた勉強会を立ち上げられた。さらに宗左近が提唱された「夜の虹賞」では、様々なジャンルでコッコツと技術の継承とレベルアップに邁進している方々へ「夜の虹」の光を当て、もつと日々の素晴らしい活動に虹を架けることは出来ないかと望まれて賞を贈られた。

宗左近は市川に晩年二十八年間を過ごした。一九九九年には第一回市川の文化人展「宗左近宇宙」が開催され、二〇〇四年には市川市名誉市民となり、そして二〇〇六年六月二十日に八十七歳の生涯を閉じた。

能村 研三